

東日本大震災
あの日を未来につなぐ、宮城のいま。

2020.2.11

Vol.
46
February, 2020

ナウイズ
毎月11日発行

NOW IS.

in
浦戸
諸島

塩竈市

小松
三浦大輝
ぜんりよくボーイズ
笙

ぼくの発見を
みんなに伝えたい。

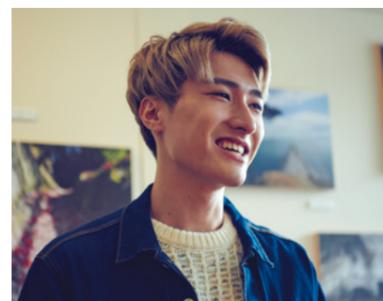


三浦大輝

何にもない。それがいい！



小松笙



NOW IS. 対談

Talk Session

in 塩竈
野々島

SHIOGAMA Nonoshima

自分が好きな野々島を
知って、触れて、
体験してほしい。

マリゲート塩釜から船に揺られて約30分。塩竈市の離島、野々島を訪れたのは、ぜんりょく★ボーイズの三浦大輝さんと小松笙さん。船を降りた瞬間、「おお！自然が！」「釣りしたい！」「と歓声を上げます。そんな二人を出迎えたのは、野々島生まれで、「野々島感動支援隊」を運営する遠藤勝さん。「生まれ育った野々島の良さをみんなに知ってもらいたいんです」と言う遠藤さんとぜんりょく★ボーイズの若い二人が対談しました。

島がいいところなら人は自然に集まってくる。

遠藤勝さん(以下遠藤)「自分は生まれも育ちも野々島なんです。小学校の時にはすでに「おれはこの島で生きていくんだ！」と決めてたんです。

小松笙さん(以下小松)「え！小学生のときから。」

遠藤「そうなんです。だから、高校を卒業しても島の近くで就職したし、将来、島で生きるために海の仕事を生業にしようと思った。1992年に野々

TEAM ZENRYOKU
ぜんりょく★ボーイズ

三浦大輝

PROFILE

ボーイズエンタテインメントプロジェクト「TEAM ZENRYOKU」メンバー。ぜんりょく★ボーイズ所属。三浦大輝/石巻市、小松笙/気仙沼市出身。4月4日(土)早朝常設劇場「ZENRYOKU THEATER」オープン。

みうら 小松笙
だいき

こまつ しん

島で遠藤マリンスービスを始めてからは、よりいっそう島の良さを感じるようになりました。それで、2009年くらいに「野々島感動支援隊」の前身みたいな活動をひとりで始めました。

支援隊」がスタートしたのは2013年です。震災後、ボランティアの人たちに支えてもらって始めました。島の名所や景色のいいところを案内したり、船で島の周りをまわったりしています。

三浦「確かに。若い世代の人はフットワークが軽いから、こういういいところがあると知れば、もって来てくれそう。ぼくは釣りが好きだから、今度は釣り竿を持って来たい！」

小松「海もきれいだし、遊べるスポットがたくさんありそうですね。遠藤さんは小さい時、どんなことをして遊んでいたんですか？」

遠藤「今、若い人はどうしても島の外に出ちゃいますが、島がいいところだよ、もつと良くなるよって発信し続けるのが大事だと思う。いいところには人が集まるし、戻ってくるから。そうやって、これからもやっていきたいと思っています。」

Endo Masaru

遠藤勝

PROFILE

1963年生まれ。塩竈市野々島出身。高校卒業後、塩竈市の造船所や七ヶ浜町の船修理工場の勤務を経て、1992年に野々島で株式会社遠藤マリンスービス設立。2013年に野々島感動支援隊をスタートし、島のPRに取り組む。

えんどう まさる



活躍する応援職員

SUPPORT POWER



「役人らしくないのでおかしいと思った」とよく言われます」と話す小野さんは、元銀行マン。派遣職員は、現役自治体職員や元自治体職員が多いなか、民間出身は珍しく、塩竈市内の企業を訪問すると言頭の言葉が言われるそうです。

小野さんは仙台市出身。東日本大震災では、仕事を通して間接的に復興支援に関わったものの、津波で被災した多賀城市の実家の手助けが十分にできなかったことが心に引っかかっていました。銀行退職後、復興庁の市町村応援職員に採用され、2015年6月から塩竈市産業環境部水産振興課の水産係に配属されました。任期満了に伴い、2018年4月からは兵庫県の任期付職員として同部署で現在も勤務しています。

現在の主な業務は、塩竈市の基幹産業である水産業・水産加工業の復興支援関連業務です。「施設などの復旧が進んだ一方、失われた販路が回復しないなどのソフト面における復旧が追い付いていないのが現状です。『販路拡大』『原料高』『人手不足』への支援が必要とされています」と小野さん。補助事業を紹介したり、商談会・展示会への情報提供や帯同を



塩竈市の水産加工物など特産品を紹介する展示商談会「2020塩竈フード見本市」。訪れたバイヤーに小野さんも商品の魅力を紹介していました。

被災地企業のニーズにきめ細かく対応したい

行ったり、原材料（魚種）を変更した企業の取組事例の紹介、外国人技能実習生の受け入れ企業の事例紹介など、様々な取組を行っています。「加工や販売の現場など、行ってみて気づくことが多いんです」と小野さんは言います。支援実現のため、実際に企業を訪問し、被災地企業のニーズをきめ細かく把握するようにしています。

「塩竈の水産業・水産加工業者は高いポテンシャルを持っています。塩竈市と市内事業者がワンチームとなって他産地に対抗することで、これまで以上にゆるぎない確固たる地位を築いていけると思っています。」

塩竈市 産業環境部
水産振興課 水産係
主幹
小野 浩明 さん
おの ひろあき
兵庫県より
塩竈市に派遣

復興や防災にまつわるニュースをお伝えします

AREA information

しおがまさま神々の花灯り

「しおがまさま」の愛称で親しまれる鹽竈神社が桜で満開となる頃、参道や202段の表坂がライトアップされます。由緒ある荘厳な舞殿では雅楽や琴が演奏され、境内の随所で古代笛が奏でられます。優しく照らされた桜は、昼間とは違った表情を見せ、風情ある灯りと音の競演が楽しめます。同時開催のイベントも複数あります。



●日時：令和2年4月17日（金）・18日（土）18:30～20:30（予定）
●会場：志波彦神社・鹽竈神社境内 ☎022-367-5111（塩竈市青年四団体連絡協議会）

第34回塩竈の醍醐味

地元の美味しい海鮮を中心に恒例の食のイベントを開催します。マグロや焼きガキはもちろん、新鮮な海の幸を販売予定です。また、親子で楽しめるワークショップコーナーや塩竈・宮城のこだわりショップも出店。ほやの唐揚げや塩竈ビールなど各店自慢の味を楽しんでみませんか。



●日時：令和2年2月22日（土）・23日（日）10:00～15:00
●会場：マリンゲート塩竈 ☎022-361-1500（マリンゲート塩竈）

素敵な場所、あったかい人。 このままで豊かな 離島をめぐる。

「『エモい』島で過ごす。自分の言葉で発信したい。」
野々島感動支援隊の遠藤勝さんから熱い想いを聞いた後、会話にも出てきた「だんべっこ船」に乗船した二人。野々島の港を起点に、小さな島々が点在する松島湾をめぐる。小型船は視線が水面に近く、迫力満点！

強い向かい風と波しぶきに思わず声が出ます。船でしかくぐれない小島のトンネルを通過した時は、「ぎりぎり！」と思わず身をすくめてしまいました。
「遠藤さんのいち押し場所は？」と小松さん。遠藤さんは笑いながら「ありすぎて選べない」と答えます。「毎日風景が違ってくる。いっぱいありすぎる。」

こういふ島があるって知らない人がいっぱいいるでしょう。初めての人に、こういういいところをたくさん見てほしいですね。
遠藤さんと別れて、渡し船で桂島に向かいます。浦戸宝島つながらプロジェクトの観光ガイド、内海信吉さんが案内してくれました。団体職員として働き

最後に訪れたのは、がんばる浦戸の母ちゃん会代表の内海みな子さん。「牡蠣剥きが最盛期で」とみな子さん。手には、母ちゃん会がつくる牡蠣の瓶詰めや海苔があります。「この海苔は、一番柔らかいのでつくった。これは、地元で飽きるくらい食べる牡蠣の佃煮。」「絶対うまいやつだ！」と歓声を上げ

ながら、ボランティアでガイドをしている内海信吉さん。「今は高齢者が多い島ですが、昔は遠洋漁業やラッコ漁の拠点基地として栄えたんです。ほら、今でも門構えが立派な家が多いですよ。歩いていると、ノラ猫が集まってきます。「島のみんなが可愛がってるんですよ。いい島ですよ、のんびりして。白い砂浜を見た三浦さんが、波打ち際に走っていきます。」「ここでライブしたら、気持ちいいだろうなあ！」



母ちゃん会の商品を手に、「うまそう」と笑顔になる二人。



がんばる浦戸の母ちゃん会の拠点「番屋」前で、内海みな子さんと。



野々島感動支援隊の人気メニュー「だんべっこ船」で島めぐり。



内海信吉さんの案内で桂島をぐるり。「ここ、泊まりにきたい」と三浦さん。

「3人とも何もないって言うけど、ぼくからしたら魅力的なことばかり！」と小松さん。「人が少ないからこそ、最高の風景とあったかい地域があるんだなど感動しました。三浦さんもうなずきます。「塩竈からたった数十分でこんな素敵な場所があるなんて！ほんとうに、気軽にみんなに来てほしい。ぼくらの言葉で言うと『エモい』場所がたくさんだから！自分だけのとおきおきの時間を過ごせるんじゃないかなと思います。」

check! 01

官民が協力して、被災地の健康被害を防ぐ。



「おりひめトイレ」には、流水防音装置や換気ファンも設置されています。におわず、広々とした安心のトイレ空間は、多くの人々が快適に使用することができます。

東日本大震災では、各家庭、行政においてさまざまな問題が浮き彫りになりました。その中でも、被災者の生活に直結し、深刻な問題となったのがトイレの問題。避難所となった公共施設のトイレでは水が流れず、汚物があふれ、多くの人がトイレの利用を控えたために健康被害も起こるなど、衛生面、健康面で深刻な状況を引き起こしました。

その状況を受け、積水ハウス株式会社(本社・大阪市北区)とOTTO株式会社(本社・福岡県北九州市)、そして仙台市が協働し、女性や子

もにもやさしい移動式仮設トイレ「おりひめトイレ」を2015年に開発しました。積水ハウス株式会社の女性社員だけでなく、仙台市内の女性デザイナーも開発メンバーに加わり、女性らしい優しい曲面の外観と清潔で美しい内装デザインを採用。また、安全、安心、快適に利用できるよう、照明や防犯ベルの設置や、ゆとりある室内にはベビーカーや、荷物置き等も配置されています。また、ドアを開けた際にトイレの中が丸見えにならないように配慮され、OTTOの施設で空間検証を行ったそうです。

災害時の 安心安全なトイレを開発

check! 02

今後広がりを見せる
快適トイレの需要。



外観もかわいらしい「おりひめトイレ」。2015年に仙台で行われた「第3回国連防災世界会議」スタディツアー会場に設置され、世界中から訪れた出席者にも紹介されました。

積水ハウス株式会社の広報企画室によると、「これまで住宅で培ってきたノウハウを活かせないかというところで私たちも参加させていただきました。開発にあたっては、地元の協力者を通してヒアリングを行ったほか、実際に使っていたアイデアのフィードバックもいただきました」とのこと。

開発の翌年に発生した熊本地震では、実際に被災地への貸出しを行い「従来の仮設トイレよりも格段に使い心地がいい。家のトイレのようで、心の支えになりました」との声を頂

戴しました(広報企画室)といいます。さらに、「おりひめトイレ」リリースのニュースを見た佐賀県からは購入の申し込みがあったそうで、機能性を変えずに、従来のものよりもコンパクトで運びやすく、ハンドリングのいい改良タイプのもを販売したそうです。広報企画室では「運用面での問題をクリアして、今後もさまざまな方にお使いいただけたらと思います」と話します。災害大国日本で、このトイレの需要はますます高まりそうです。

NOW IS. 防災

NO.1 BOSAI FRONT LINE

PROFILE

積水ハウス株式会社

1960年設立。自由設計と先進の技術による住まいで、お客様の理想の暮らしを実現。住宅施工から賃貸住宅、マンションなど、街づくりや都市計画など、住環境に貢献する事業を展開している。

Vol.10

INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

01 東日本大震災追悼式典の会場について

令和2年3月11日(みやぎ鎮魂の日)に県内各地で開催される追悼式典の会場等をお知らせします。詳細については各市町等のホームページ等をご確認ください。

市町等名	開会時間	開催場所	連絡先
仙台市	14:20	宮城野体育館(元気フィールド仙台内)*他に献花台を6箇所設置予定	022(214)1145
石巻市	14:40	石巻市河北総合センター	0225(95)1111
塩釜市	14:10	塩釜ガス体育館	022(355)5007
気仙沼市	14:30	気仙沼市総合体育館	0226(22)6600
名取市	14:30	名取市文化会館	022(724)7140
多賀城市	14:30	多賀城市文化センター	022(368)1141
岩沼市	14:30	岩沼市民会館	0223(22)1111
東松島市	14:30	東松島市民体育館	0225(82)1111
亘理町	14:30	亘理町中央公民館	0223(34)1111
山元町	14:45	山元町東日本大震災慰霊碑建立地	0223(37)1111
七ヶ浜町	14:45	七ヶ浜国際村	022(357)7437
女川町	14:00	女川町総合体育館	0225(54)3131
南三陸町	13:30	南三陸町総合体育館(バイサイドアリーナ)	0226(29)6451
利府町	9:00	ペア・パル利府(市民交流館)(献花台、記帳所)	022(767)2112
(公財)宮城県スポーツ協会	9:00	グランディ・21セキスイハイムスーパーアリーナ(献花台、記帳所)	022(356)1122
宮城県	9:00	◎宮城県庁行政舎、大河原合同庁舎、大崎合同庁舎(献花台、記帳所) ◎宮城ふるさとプラザ(東京)及び大阪事務所(記帳所)	022(211)2464

02 「仙台防災未来フォーラム2020」東日本大震災から9年 これまでの歩み、これからの思い

防災の専門家による基調講演のほか、様々な立場の市民の方々がそれぞれの言葉で震災の経験や教訓、その後の防災・減災活動を振り返るパネルディスカッションを行います。

- 日時：令和2年3月14日(土)13:45~16:00 (13:15受付開始)
- 場所：エル・パーク仙台 6階 ギャラリーホール
- 登壇者：今村文彦氏、大場留理子氏、菅野拓氏、菅原康雄氏、白土瑞樹氏(五十音順)
- 参加費：無料
- 定員：200人(事前申込優先、3月11日(水)17時締切)、定員に達しない場合は当日入場可
- 申込方法：「仙台防災未来フォーラム2020」ホームページ内の申込フォーム(https://sendai-resilience.jp/mirai-forum2020/) または運営事務局への電話、FAX(氏名、連絡先を記載)



◎仙台防災未来フォーラム2020運営事務局
☎090-2952-0251(土日祝日を除く10時~17時) FAX:022-395-6908

MEDIA INFORMATION



みやぎ復興情報ポータルサイトは
こちらから!



https://www.fukkomiyagi.jp

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」をリニューアルしました!復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取組などを発信します。

最新情報を
ブログで!

ブログピックアップ

宮城発! 元気と食の 最新情報



一般社団法人 IkiZen
震災復興に軸足を置き、被災地企業の販路開拓や商品開発、広報活動支援などを行っています。

石巻雄勝の漁師が経営する会社「海遊(かいゆう)」。雄勝湾の牡蠣を軸にホヤ、ムール貝、ホタテの養殖から加工販売を行うほか、仙台市にオイスターバー「Ostra de ole (オストラデオレ)」をオープン。生産、加工から販売まで、6次化の取組を紹介します。

NOW IS. 復興 インタビュー



NOW IS. 取材チーム
日々、被災地を巡っているNOW IS. 取材チームが、被災地で復興に向けてさまざまな取組を行う団体などを紹介します。

せんだいメディアテークが行っている「アーティストのユニークな視点と仕事」と、地域の「人材、資源、課題」をつなぐプロジェクト「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」。その中で、世界的なアーティスト川俣正氏の「仙台インプログレス」を紹介します。

「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS. 復興レポート」をご覧ください。

- いまを発信! 復興みやぎ SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地の「いま」を発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。
- NOW IS. メールマガジン NOW IS. の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。 NOW IS. メールマガジン で検索して登録!

取材 こぼれ話 Voice from STAFF

浦戸諸島に菜の花の名所が増える!?

2017年NOW IS.18号で取材した塩竈市派遣職員の奥野満也さんは、浦戸諸島の寒風沢島で農豊の基礎づくりを担当。昨年任期満了につき退職され、今回取材した派遣職員の小野さんが引き継ぎ、野菜生産者組合の関連業務も担当しています。昨春秋、寒風沢島に緑肥として菜の花の種を蒔いたそうです。浦戸諸島は朴島の菜の花畑が有名ですが、今年のGWは寒風沢島も黄色の絶景が見られる予定だそうです。「浦戸諸島全島が話題になれば」と小野さんは話してくださいました。



みやぎのタカラ

Treasures of Miyagi

宮城県が得た震災の教訓や復興の道筋は、未来に役立つ宝に育ちつつあります。
この地で生きる人々の想いととも、世界に発信していきます。



FILE
No. 10

塩竈・野々島 野々島感動支援隊

えんどうまき
遠藤勝さん

生粋の島っ子が発信。
特別な島の日常。

野々島感動支援隊は、2013年にスタートした取り組み。野々島で生まれ、島で育った遠藤勝さんが手弁当で行っています。支援隊の活動を始めた動機は、島っ子だからこそ知っている、島のちょっとした日常や美しい風景を、多くの人に伝えたいと思ったから。東日本大震災の後、島の外から来たさまざまな人に出会い、島に住んでいれば当たり前の風景が外の人にとってはとてもプレミアムなものなんだ、と気づいたのがきっかけだと言います。

感動支援隊では、島を訪れた観光客をガイドしたり、ミニクルーズの運営や、カヌー体験を行っています。冬の終わりに美しいのは、樺の木が道に覆いかぶさる「樺のトンネル」。夏には、ラベンダー畑や打ち上げ花火。カヌーは、ちょっとしたプライベートビーチのような場所で、島々を眺めながら体験できます。

目下の悩みは、隊員不足。島の魅力を共に発信していける仲間を募集しています。



NOW IS. **46**

発行：2020年2月11日 宮城県震災復興本部(事務局：震災復興推進課)
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号
Tel: 022-211-2408 Fax: 022-211-2493

『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

 宮城県
Miyagi Prefectural Government